

東京理科大 学報



TOKYO
UNIVERSITY OF
SCIENCE

2023. October

Vol.

231

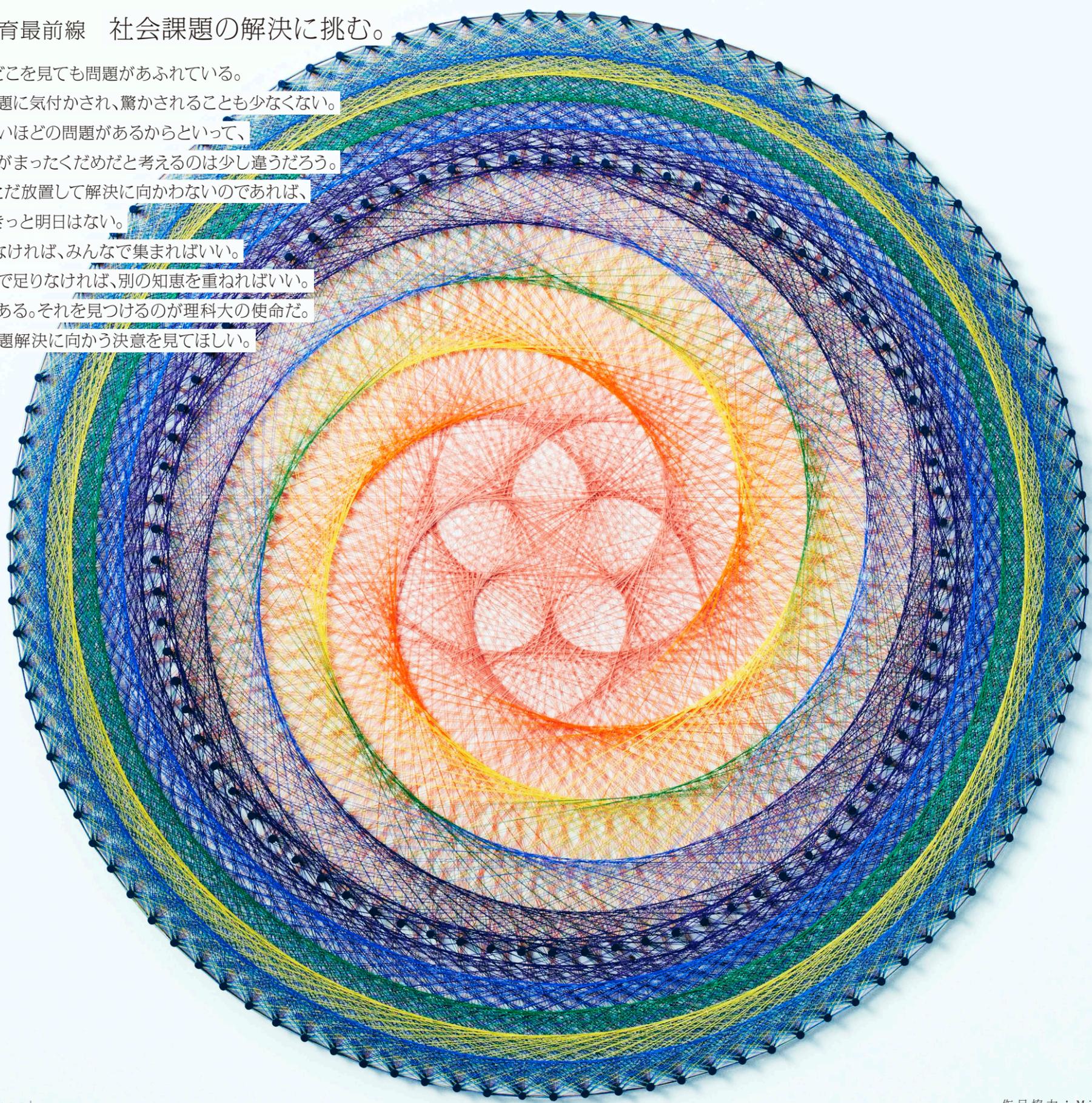
TUS
Journal

集まって力になる。

集まって力になる。進化して広がる。

特集 教育最前線 社会課題の解決に挑む。

世の中は、どこを見ても問題があふれている。
見えない問題に気付かされ、驚かされることも少なくない。
数え切れないほどの問題があるからといって、
この世の中がまったくだめだと考えるのは少し違うだろう。
それでも、ただ放置して解決に向かわないのであれば、
私たちに、きっと明日はない。
一人でできなければ、みんなで集まればいい。
一つの知恵で足りなければ、別の知恵を重ねればいい。
糸口は必ずある。それを見つけるのが理科大の使命だ。
私たちの課題解決に向かう決意を見てほしい。



1	特集 教育最前線 社会課題の解決に挑む。
3	協働で構想する。 経営学部 国際デザイン経営学科 飯島 淳一 教授 経営学部 国際デザイン経営学科 鈴木 美央 講師
5	複眼で創造する。 創域理工学部 副学部長 情報計算科学科 滝本 宗宏 教授
7	Labo Scope
8	理大人
9	STUDENT LABO
10	STUDENT ACTIVITY
11	学長室だより
12	TOPICS & INFORMATION

物華天宝

幻の聖杯

常温超伝導体「LK-99」の話題が、この数週間、世界を駆け巡っている(本稿を執筆している現在)。LK-99と呼ばれる物質が常温常圧で超伝導を示すというニュースに人々が熱狂しているのだ。超伝導体とは、電気抵抗がゼロになる物質のことで、通常これらの物質はおよそ-250°C以下の極低温領域で超伝導を示す。1993年に発見されたHg-1223は、およそ-140°C以下で超伝導を示し、大気圧中において現時点で最も高い温度で超伝導を発現する。もし常温常圧で超伝導状態になる物質の存在が確認できれば、間違いなく革命的な発見と言えよう。さて、LK-99は本当に常温超伝導体なのか。人々の熱狂とは裏腹に研究者の周りでは静けさが漂っている。公表されたデータを見る限り、現時点ではLK-99は超伝導体であるとは言い難い。実は年に数回このような未確認常温超伝導体の情報が研究者の間に出回ることがあるが、いずれもデータに不備があったため、常温超伝導は否定されてきた。多くの研究者はLK-99もその一つだと考えているのである。今回、よくある未確認情報の話でこれほど大騒ぎになったことに、驚きを禁じ得ない。SNSやYouTubeが媒体となって今回の話が広まったようである。これらのメディアの拡散性と不確実性を改めて思い知らされた一件であった。

理学部第二部 物理学科 教授 西尾 太一郎

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

2030年に向けて世界が共有した「持続可能な開発目標」です

今回の「特集」は、持続可能な開発目標(SDGs)「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」の関連教育です。

地域などの
人や組織と協働しながら、
共に未来を構想する、
『コ・デザインプロジェクト』。



協働で、 構想する。

長万部キャンパスで、
1年次の全員が取り組む
学科のコアとなる授業。

経営学部国際デザイン経営学科1年次の学生たちが、北海道にある長万部キャンパスに住みながら、長万部の街を舞台に、住民の方々と共に行う北欧流のデザイン思考プロジェクト。それが、『コ・デザインプロジェクト』だ。飯島教授は言う「デザイン思考とは、やっかいな問題から出発して、より良い未来の創出を支援する人工のものや仕組みを創り出す知的活動と捉えています。『コ・デザインプロジェクト』では、「問題」とか「解決」といった言葉は使わず、もやもやしたものを抱えている人々と共に悩み、より良い未来について構想し、その実現のために実践します」。また、鈴木講師によると「デザイン思考で大切なのは「問題」や「解決」ではなく、対象に向かう姿勢や態度です。例えば、ある地域に行ってこれが問題だという態度を取るのには、あまり正しいとは言えません。人々と関わり合い、実践しながら、どういう態度が必要かを身につけていくことが大切です」。



経営学部
国際デザイン経営学科
飯島淳一 教授

専門分野は、情報システム、システム理論。コミュニケーションの行為という観点から企業における調整行為を捉える研究やデザイン経営についての研究を行っている。



経営学部
国際デザイン経営学科
鈴木美央 講師

専門分野は、都市計画、建築計画。特に人が集うマーケットに着目して研究。マーケットという小さな個の集合体が、街を変えていく様子に興味を持っている。

『コ・デザインプロジェクト』に確立した手法があるわけではないという。理科大オリジナルの取り組みがここでは進んでいる。

地域の人たちとの 交流を通じて、共に 構想する手法を学ぶ。

これから学生が街に行きます。というアナウンスが街に対して行われるわけではもちろんない。学生たちは、住民の方たちとの出会いに、苦勞するのではないかと思うのだが、どうやらそんな心配は必要ないようだ。4人程度で構成された30以上のチームが「理科大+長万部+〇〇」というテーマ探しを行いながらプロジェクトを進めていく。偶然の出会いから始まる活動もあれば、先輩から継承した活動、自分たちの発案から関係づくりに奔走したものなどさまざま。住民の方たちとの関係もさまざまということになる。鈴木講師は言う「積極的に学生たちが質問に行くと、住民の方が積極的に対応してくれると

いうのも参加の一つです。でも、コ・デザインというのは、そこで話さなくても観察しているとか、一緒にその場にいるとか、そういうことも含めて共に考えることだと思っています。例えば、少し素っ気ない対応をされたりしたときに、外部から人が来たら内部の人はどう思うのだろうかと考えるようなことがあれば、それは一つの学びです。当然、うまくいかないこともあるようですが、失敗を恐れず失敗から学ぶというのが、国際デザイン経営学科の一つのテーマになっているそうだ。「学生たちによく言うのは、『私も答えを持っていません』ということ。正解かどうかを聞かれても、正解なんてそもそもないと思っています。そういうことに、向かっていくのがこの授業です」と鈴木講師。

国際デザイン経営学科での 4年間を支える 基礎となる体験。

『コ・デザインプロジェクト』は1年次の前期の間続く演習型の授業ではある

が、住民の方と未来を構想していく終わりのない活動でもある。前期の最後には、住民の方も招待して、それまでの活動の発表会が行われる。その一例を挙げると、「畜産業の課題に取り組みするチームはメンバー全員が1週間、肉の摂取をやめることでリアリティをもって課題を捉えようとした」、「ゴミ問題に取り組みするチームはゴミアート展を提案し実際に自分たちでペットボトルのふたで作品をつくった」など。そこには決定的なものがあるとは言いが、確かな取り組みがある。そして、取り組みながら考えることは続いていくのである。学生たちにとって『コ・デザインプロジェクト』は大きな意味を持つようだ。この後の年次においても、授業のレポートなどにプロジェクトでの経験を引用する学生が多いという。飯島教授は言う「学生にとってはイニシエーション(通過儀礼)であり、これからやるべきことの動機づけにもなると思っています」。学生はまだ1年次である。できた経験、できなかった経験が、これからの学生生活に大きな違いをもたらしてくれることだろう。





2023年4月、理工学部は創域理工学部へと名称を改めた。もともと、「物事の本質を見極める理学」と「その知見を応用する工学」とが融合する理工学部では、学科の枠を超えて共働（きょうどう）しあう、多くの研究が進んでいた。その特長をさらに強化し、また、複雑化・多様化する社会の要請に応えるために、既存の分野を横断して領域を創造する学部へと進化した。そのための、学部における特長的な教育の一つが『創域特別講義』である。野田キャンパスにある創域理工学部と薬学部の1200人を超える学生が履修する。滝本教授は言う「1年次の前期に創域とは何か、そして共働が持つ力を理解する『創域特別講義』があった、大学院生になったら他専攻の研究室で融合教育研究を行う『創域融合特論』があります。その間に、数学・物理・化学などの基礎科目の共通化があり、異なる学科間でも同じ言葉で議論できる環境を整備しながら、知識の共通基盤を形成していきます。そのよう

異分野の研究者や学生の思考法に触れる。これまでにはない体験。

授業の多くはオムニバス形式で行われ、週2回の授業では、4つのテーマについて学ぶことになる。創域理工学部の10学科11専攻、薬学部2学科の教員と社会で活躍する卒業生が、各学科の専門分野や最先端の研究などを説明していく。数学や化学などから、薬学、建築、機械、情報工学、さらには中国思想やスポーツ科学と幅広い講義が用意されている。「教員や卒業生の方々には、単に自分の専門を説明するというよりも、分野を超えた融合的な取り組みについて話してもらおうようお願いをしています」と滝本教授。学生たちは、講義を聞くとともに、5、6人でグループを組み、毎週4つのテーマから一つ決められる課題についてレポートをまとめて

理工学分野において新しい領域と価値を創造するために。

いく。滝本教授は言う「そのグループというの、学科の異なる学生でつくられていて、協働で一つのレポートを提出します。分担して書いたり、誰かが代表して書いたり、やり方は自由です。そういう段取りをつけることも、融合的なアプローチの第一歩だと考えています」。学生たちからの声を紹介すると「まったく触れたことのない分野でしたが、自分の選択している分野とのつながりが発見できました」、「理系の各分野を組み合わせて問題を解決することに、新しさと面白さを感じました」、「普段、交わることのない他学科の学生たちと課題を通して議論することで、今まで自分になかった、別の考えが取り入れられるいい機会になりました」など。グループの予定を合わせるのが大変など戸惑いの声もあるようだが、ポジティブな意見が多いようだ。

学部から修士課程に進むと、専攻を跨いだ幅広い分野から参加できる横断型コースが用意されている。そのための準備が学部から始まっていると捉えてもいいだろう。滝本教授は言う「我々には、融合することの難しさが骨身にしみています。分野の違う人たちが集まって話を始めてみると、専門用語が通じない、言葉が通じないわけです。そういうことをなくしていきたいというのが、『創域特別講義』の本来的な意味だと思えます」。授業の最後の質疑応答では、「共同研究というのはどうやって始めたいのですか」という実質的な質問が学生からあったのが興味深かった。教員は「私はとにかく、いろいろな人に話しかけて、何が専門か、どんな研究をしているのか聞きます」と答えていた。もっと難しいことなのかかと思っていた学生は、それなら自分もできると思ったことだろう。そして、教員は「辛抱しないといけない。そうしないと何も見えてこない」とも話していた。難しくそうでは簡単で、簡単そうでは実はとても難しい。創域へ向けた取り組みが、確実に一步一步、動き出している。

創域理工学部の1年次に全員が受講する分野横断型の講義。

に分野横断的な考え方をだんだんと高めていくわけですが、いちばん最初の入口が『創域特別講義』です」。



創域理工学部
副学部長 情報計算科学科
滝本宗宏 教授

専門分野は、ソフトウェア（コード最適化、コード並列化）。並列帰納論理プログラミング、移動エージェントを用いた群ロボット制御などを研究。



複眼で、創造する。

学問領域の枠を超え、その取り組みを知ることで問題を解く複眼的思考を身につける、創域特別講義。

無限の可能性を秘めた
ハイパーマテリアルを探究し、
まだ世の中にない
材料を創成する。



先進工学部 マテリアル創成工学科

田村 隆治 教授

ryuji tamura

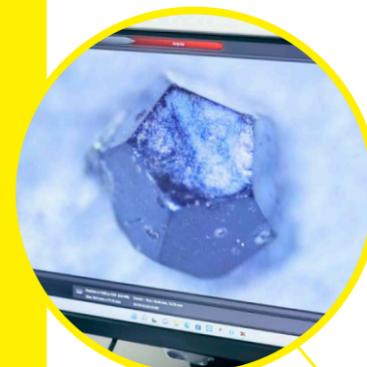
日本が世界をリードする準結晶研究。
世界初の強磁性準結晶の発見から
さらなる発展へ。

世の中に存在するあらゆる物質は、すべて原子でできている。原子の組み合わせによってさまざまな種類となり、そのほとんどが、原子が周期的に並んだ結晶でできている。「ガラス等、原子の並びが不規則なアモルファスというものもありますが、長い間、固体の種類は結晶をベースに考えられてきました。それが1984年に、シエヒトマンという博士が、結晶のような規則正しい周期性を持たないもの、原子が特異な規則性で並んでいる「準結晶」を発見しました。この発見は、結晶学の概念を覆す大発見で、のちにノーベル化学賞を受賞しました」と教授。田村研究室では、この準結晶を中心にまだ世の中に知られていない物質を解析したり、新しい特性を持つ材料を創成したりしている。研究室では、すでに、3元素から成り立つ新しい準結晶や近似結晶を100種類以上も確認しているといい、2021年に

は、世界初となる強磁性準結晶を発見した。「ハイパーマテリアルである合金は、原子が集まった多面体のクラスターが、マトリョーシカのように、小さいものの外側に、少し大きいものというように、入れ子構造になっているのですが、3番目のユニットの頂点にある原子が磁気特性をつかさどっていることを発見しました。その3番目のユニットだけを制御することで、軟磁性材料や硬磁性材料をつくることが可能で、準結晶と触媒元素を組み合わせることで、水素製造触媒の開発にも応用できると思います」。また、文部科学省の新学術領域研究の領域代表でもある田村教授は、AIを使った準結晶予測モデル構築など全国のハイパーマテリアル関連の研究を統括している。「ハイパーマテリアル」という言葉も、結晶や準結晶を含む大きな枠組みとして田村教授たちが定義したそうだ。「この研究は、分からないから面白いし、元の元素と得られる特性が違うという部分も面白い。教科書に書いてあることだけが正解とは限らない。あり得ないということと一緒にぶっ壊していきましょう」。田村研究室では、今日も新しい何かを発見しているのかもしれない。

PROFILE

1993年 東京大学工学部材料学科卒業。1998年 東京大学工学系研究科材料学専攻博士課程修了。1998年より東京理科大学基礎工学部材料工学科所属。2015年東京理科大学基礎工学部教授。2021年より現職。専門は、金属物性・材料(準結晶、近似結晶、磁性材料、貴金属材料)、2019年より文部科学省科学研究費助成事業 新学術領域研究 領域代表に就任。



Pick Up!

合金(亜鉛・マグネシウム・希土類)の準結晶。溶かして固めた状態で美しい正十二面体が確認できる。



「Labo Scope」は本学YouTubeチャンネルでもご覧いただけます。
※田村教授は後日公開予定。



分野を超えた知識と経験、純粋な挑戦心で、
人とゲームと社会をもっとおもしろく。

プログラマと聞くと、いま

だに理系の専門職というイメージがあるかもしれない。日本の大手ゲーム・エンターテインメント会社であるセガで、4年目の若手ゲームプログラマとして活躍する石山さんは理科大の経営学部卒業。文系出身でありながら大学内のゲームサークルにおいて独学でプログラミングを学び、プログラマとして入社した強者だ。「高校時代からゲームにまつわる仕事がしたいと思っていましたが、文系だったため、総合職や事務職を想像していました。理科大入学後に、友人に誘われて当時活動していたプログラミングサークルに参加し、初めてUnityというゲームエンジンに触れ、ゲーム作りやプログラミングのめり込むようになり「ゲームプランナーのインターンも経験したが、やはりゲー

ムの開発・実装部分に携わりたいという思いが強くなっていたと言う。石山さんがセガと出会ったのは、とあるプログラミングの勉強会に参加した際。出席していたセガの社員の方から伺った、エンタテインメントに関する幅広い事業展開と、若手が挑戦できそうな社風に魅力を感じ、入社に至ったそうだ。「1年間の研修で、社内専用のゲームエンジンの扱い方からプログラミング言語、ゲーム作りを丁寧に教えていただきました。現在は、ずっとファンだった『龍が如く』シリーズのミニゲーム開発を担当しています。発売後のお客さまレビューや実況プレイなどで、自分が意図した「こだわりのポイント」を楽しんでいただけに見える様子を見ると、喜びとやりがいを感じます」。今後はプログラマとして家庭用ゲームの開発スキルを



▲担当する『龍が如く』シリーズのゲームパッケージ

理大人 R I D A I H I T O

各界で活躍する卒業生を紹介

株式会社セガ プログラマ 石山 莉帆さん

PROFILE

2020年3月東京理科大学経営学部経営学科卒業。同年4月、株式会社セガに入社。ゲームコンテンツ&サービス事業本部第1事業部に、コンシューマプログラマとして配属。現在に至る。



「理大人」は本学HPでも公開しています。

STUDENT  ACTIVITY

北海道・長万部キャンパス特集

仲間と学ぶ、地域で学ぶ、
理科大オリジナルの体験があるキャンパス。

経営学部国際デザイン経営学科の1年生が、寮生活をおくる北海道・長万部キャンパス。実際の地域課題を題材として解決策を模索する「コ・デザインプロジェクト」に取り組みながら、少人数体制で英語や数学、プログラミングの基礎を固めています。



時間を気にせず仲間たちと遅くまで一緒に勉強できる環境がいいですね。数学に強い人もいるし、課題の相談もいつでもできます。全然、寂しくありません。



学生ラウンジがあって、じっくり話せるので教わることが多いです。考え方の違いを実感したり、意見を合わせていく方法も身につきますね。



大学内の充実した施設を使用したり、街の施設も利用しながら、学生たちが自主的に多くの活動に参加しています。



バレーボール部



ソフトボール部



軽音楽部



北海道・長万部キャンパスの紹介は
本学YouTubeチャンネルでも
ご覧いただけます。

STUDENT  LABO

#26

独自に生成した化合物から、
睡眠薬や抗不安薬の構造を調査し、
新たな治療薬の可能性を探る。

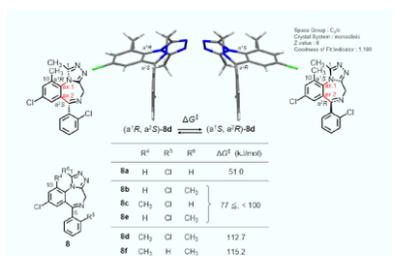
薬学研究科 薬科学専攻 博士課程2年
高橋研究室

田中 諒子さん



社会の24時間化や多様化するストレスなどにより、睡眠薬や抗不安薬の処方率は年々増えている。しかし、薬の成分が、体にどのように作用しているかなど、詳細が解明されていないこともある。田中さんは、睡眠薬や抗不安薬として使われるベンゾジアゼピン系医薬品を対象に、軸不斉という観点から、医薬品の立体構造を明らかにする研究をしている。「既存の医薬品の化学構造を少し変えてみると2つの化合物が現れます。それらはお互いに鏡に映ったような構造になっています。これが軸不斉という現象であり、この2つの化合物は軸不斉異性体と呼ばれています。それぞれの異性体は体内で異なる効き目を表す可能性があり、どちらが良いのか調べています」と田中さん。この調査結果が、新薬開発の参考になる。現在は

効き目が強い方の分子が明らかになり、研究も好ましい結果となったため、論文にし、学会などで発表を行っているようだ。さらに、この論文を読んだAIなどの計算科学に従事する研究者の方との共同研究も始まったという。「別の研究から、ベンゾジアゼピン系医薬品が抗がん剤にも使えるのではないか、という仮説が立っています。私たちの研究で用いた化合物や軸不斉の知見と、AIにより提案された構造データの結果を組み合わせると新たな医薬品を作れないかと、お声がけいただきました。研究室を超えて、自分たちの研究が少しずつ世界に広がっていく手応えを感じています」。そんな田中さんが、数ある医薬品の中でベンゾジアゼピン系医薬品を研究に選んだのは、古くからある医薬品に再び脚光を当てたいと考えたことがきっかけだ。もともと有機化学の研究に興味があり、研究室体験で行った化合物合成のおもしろさに惹かれたという。「今後も、自分の研究はベンゾジアゼピン系を対象に続けていきたいですね。違う部分の軸不斉に着目し、



軸不斉異性体の立体構造を示した図と構造式

新たな視点から、活性の度合いや化合物の可能性を調べていきたいです」と目標を語ってくれた。田中さんの研究と新しい試みは、新薬の明るい未来を切り開いてくれることだろう。

Voice!

一生の恩師とも出会った理科大。
好きなことを続けてきて
良かったです！



研究対象の化合物を入れて2種類に分ける機械

東京理科大学名誉教授称号授与

INFORMATION 01

長年にわたり本学の教育・研究の発展に尽力し、多大な功績を挙げられた7名の先生方に、2023年6月8日付で名誉教授の称号を授与しました。 ※学部・学科および研究科・専攻の名称、役職は在任当時のものです。



築山 光一 先生

1995年に助教として着任され2000年に教授となられて以降、理学部第一部化学科主任、大学院総合化学研究科長、理学部第一部学部長、大学院理学研究科長、図書館長等の補職を歴任されました。学外では日本分光学会理事や日本化学会春季年会(本学野田キャンパス)会場・総務小委員会副委員長、国際化学オリンピック出題委員、大学改革支援・学位授与機構学位審査会専門委員等を歴任されました。専門はレーザーを用いた分子分光学であり、多大な業績により日本分光学会賞を受賞されています。



渡邊 昇 先生

1986年に助手として着任され2006年に教授となられて以降、計算科学フロンティア研究センターを兼務された他、理工学部情報科学科幹事、大学院理工学研究科幹事、研究推進機構総合研究院量子生命情報研究部門長等を歴任されました。専門は量子エントロピー、量子情報通信理論、量子計算機の基礎的研究、関数解析等。本学野田キャンパスで、QBIC Workshopを毎年開催し、2003年には、量子情報国際会議ICQI2003を、2017年にはQP38を開催される等、各方面において多大な貢献をされています。



宮村 一夫 先生

1998年に助教として着任され2004年に教授となられて以降、理学部第一部化学科主任、大学院総合化学研究科幹事、理学部第一部学部長、大学院理学研究科長等の補職を歴任され、日本化学会理事、化学遺産委員会委員長、「化学と教育」誌編集委員長、日本分析化学会副会長及び理事、日本分光学会理事、日本鉄鋼協会理事を歴任する等、学内外で広く貢献されました。専門は錯体化学・分析化学で、他にもNHKラジオ「全国鉄道紀行」を10年近く続けられる等多方面で活躍されています。



椋田 洋太郎 先生

2006年に教授として着任されて以降、理工学部にてFD幹事、就職幹事、大学院幹事、学科主任を歴任されました。学科主任時は学部学科再編計画策定時期に学科の先頭に立ってカリキュラム改革案を取りまとめた他、2020年には新型コロナウイルス流行という未曾有の事態の中、当学科学生の教育機会確保に多大な貢献をされました。専門は情報通信集積回路及びシステムに関するもので、当該分野の発展に顕著な功績を残すとともに、数多くの学生を指導し、技術者・研究者を育成されました。



目黒 多加志 先生

2009年に教授として着任され、理学部第二部物理学科幹事、同学科主任、理学部第二部学部長、学生支援センター副センター長(神楽坂地区)、キャリア支援センター長(神楽坂地区)等を歴任されました。学部長時には理学部第二部オリジナルのオープンキャンパスである「夜力」の立ち上げにおいて中心的な役割を果たし、全国の多くの高校を訪問して理学部第二部の特長や魅力を余すところなく伝える等、広報活動に尽力されました。「夜力」は受験生から高い評価を頂いています。



山本 芳人 先生

1996年10月に講師として着任され、2010年に教授となられて以降、理学部第一部教養学科主任、大学院科学教育研究科長等の補職を歴任されました。技術員時代を含めると43年の長きにわたり、本学の情報教育・教育工学(e-learning)の分野で尽力されました。多くの学術論文を発表されると同時に数多くの書籍を著し、広く教育工学の普及発展に努め、科学教育研究科、理学研究科の大学院指導教員として多くの学生を指導し、本学の教養教育、教育工学研究の充実と発展に貢献されました。



早川 洋一 先生

2004年に教授として着任され、薬学部生命創薬科学科幹事、大学院薬学研究科幹事、薬学部予算委員会委員長、病原性微生物等安全管理委員等を歴任されました。学外では日本がん分子標的治療学会評議員、日本薬学会関東支部幹事等を務められ、我が国の学術研究、薬学教育の発展に尽力されました。主として抗がん剤開発を志向した抗生物質探索とその生物有機化学的研究に従事し、日本農芸化学会農芸化学奨励賞、日本抗生物質学術協議会住木・梅澤記念賞を受賞されています。



学長室だより

It's a president room.

Vol.72

総括副学長
倉渕 隆

東京理科大学における キャリア支援の目的について

こんにちは、副学長の倉渕です。私は学生の皆さんにとって身近な学生支援を実施している学生支援機構の担当であるため、今回は本学で主に学生支援機構が行っているキャリア支援の目的について説明いたします。

東京理科大学は、理工系の総合大学として教育と研究において、国内外で高い評価を得ています。本学は、専門知識と技術、科学的思考力を身につけた人材を社会に送り出すことを使命としています。しかし、皆さんはそれだけでは十分とはいえ、社会の要求に対して高い倫理観・使命感を持って応えることが求められています。独自の視点で物事を捉える能力、柔軟な思考によってイノベーションを創出する力が必要です。また、一つの分野にとどまらず、異なる分野や文化を尊重した上で、連携・交流する姿勢が求められます。これらは皆さんが在学中に獲得することが期待されている能力であり、東京理科大学の新実力主義における人材育成の目標となっています。このことから、東京理科大学では、キャリア支援

に力を入れています。キャリア支援・キャリア形成とは、単に就職活動のサポートをすることを意味するものではありません。学生一人ひとりが、自分の将来のビジョンを描き、そのために必要なスキルや経験を積み重ねることを意味します。その過程で、自分の強みや興味を発見し、自信ややりがいを持つことができます。具体的には、以下のような取り組みを行っています。

【キャリア支援センターの設置】
キャリアカウンセラーや就職担当者が常駐し、個別相談やセミナーなどを実施しています。

【キャリア教育の充実】
全学共通科目や専門科目の中で、キャリアデザインや職業理解などの内容を取り入れています。

【インターンシップや海外留学の推進】
実際に企業や研究機関で働く体験や異文化で学ぶ機会を提供しています。

【卒業生とのネットワークの構築】
卒業生が講師となってキャリアに関する話を聞くイベントやメンタリング制度などを設けています。

これらの取り組みには、学生だけでなく教員や職員も参加しています。また、産業界や社会とも連携しています。このようなキャリア支援を通じて、学生の皆さんが自分らしい人生を歩むことを応援しています。

キャリア支援は一方的なものではありません。学生自身が主体的に関わるのが大切です。私たちは、皆さんが積極的にキャリア支援の機会を利用し、自分の可能性を広げてほしいと願っています。学生の皆さんは、自分たちが社会に出る前の最後の準備をしているとの意識を持って、なるべく早い時期から自身のキャリア形成に取り組んでください。そうすることが、皆さんの学生生活を、ひいてはこれからの人生を有意義に送ることにつながります。



2023年度国家公務員採用総合職<春試験>結果 合格者数 全大学中17位、全私立大学中6位 TOPICS 04

人事院は6月8日(木)、国家公務員採用総合職試験(春)の最終合格者数を発表しました。申込者数は昨年度より958人減の14,372人、最終合格者数は昨年度より154人増の2,027人で、競争倍率は7.1倍(昨年度8.2倍)でした。本学は昨年の26人から40人と合格者が増加し、また大学別順位では昨年の21位から17位に上昇し、私立大学中6位でした。本学では次年度に向け、各種支援行事を実施し、引き続き公務員志望者を全面的にバックアップしていきます。

2023年度国家公務員採用総合職<春試験> 出身大学別最終合格者数 ※[*]は私立大学

Table with 7 columns: 順位, 大学名, 合格者数. It lists the top 19 universities for the 2023 National Public Service Exam (Spring Exam) by university, including Tokyo University, Kyoto University, and Tohoku University.

補職人事 2023年10月1日現在の主な補職は次のとおりです。

- 学部長: 理学部第一部 関川 浩(新任), 理学部第二部 長嶋 泰之(再任), 薬学部 宮崎 智, 工学部 近藤 行成, 創域理工学部 伊藤 浩行, 先進工学部 田村 浩二(再任), 経営学部 椿 美智子
■研究科長: 理学研究科 関川 浩(新任), 薬学研究科 宮崎 智, 工学研究科 近藤 行成, 創域理工学研究科 伊藤 浩行, 先進工学研究科 田村 浩二(再任), 経営学研究科 椿 美智子, 生命科学研究科 北村 大介(再任)
■その他の補職等: 教養教育研究院長 市村 志朗, 図書館長 斎藤 慎一(新任), 教育支援機構長 井手本 康, 研究推進機構長 向後 保雄, 産学連携機構長 本間 芳和, 学生支援機構長 倉渕 隆, 国際化推進機構長 坂田 英明

INFORMATION 02

計報 元学校法人東京理科大学理事長および理学部第一部応用物理学科教授 塚本 恒世氏 2023年8月18日逝去されました。元薬学部薬学科教授 遠藤 次郎氏 2023年8月22日逝去されました。元理工学部電気工学科教授 坂田 好一郎氏 2023年9月20日逝去されました。

維持拡充資金(第二期) 寄付者芳名

「維持拡充資金(第二期)」にご賛同いただき、ご寄付を賜った方々のご芳名を掲載します。今回は、2023年5月1日～2023年7月31日までにご入金いただいた分です。ご芳名は区分別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきました。累計は維持拡充資金(第二期)の寄付額です。

お問い合わせ先 東京理科大学募金事業事務局 TEL: 03-5228-8723 FAX: 03-3260-4363 email: bokinjigyoo@admin.tus.ac.jp

- 【個人】<同窓生> 並木 榮一様 (累計金1,090,000円), 久保田 健一様 (累計金2,810,000円), 小野 眞彦様 (累計金3,625,000円), 小野 眞彦様 (累計金3,625,000円), 村上市 博彦様 (累計金1,493,200円), 岡本 公爾様 (累計金29,950,000円), 笠原 文善様 (累計金4,000,000円), 遠山 和久様 (累計金1,500,000円), 野口 多門様 (累計金2,250,000円), 藤城 崇様 (累計金1,000,000円), 森野 義男様 (累計金134,980,000円), 田中 達也様 (累計金1,900,000円), 二宮 理恵子様 (累計金50,000円), 丸市 俊明様 (累計金5,800,000円), 吉田 武史様 (累計金5,000,000円), 大内 宏様 (累計金950,000円), 齋藤 芳則様 (累計金500,000円)
並木 榮一様 (累計金1,090,000円), 吉田 武史様 (累計金5,000,000円), 守屋 茂様 (累計金2,810,000円), 秋山 茂夫様 (累計金1,800,000円), 坂本 哲志様 (累計金300,000円), 鈴木 行生様 (累計金520,000円), 多田 限 建二郎様 (累計金200,000円), 田中 孝和様 (累計金400,000円), 吉田 博様 (累計金430,000円), 松本 吉彦様 (累計金134,980,000円), 山崎 達也様 (累計金250,000円), 山中 信秀様 (累計金100,000円), 白河 曉様 (累計金200,000円), 井口 英明様 (累計金300,000円), 梅本 佳世様 (累計金500,000円), 大崎 多久司様 (累計金300,000円), 小澤 正幸様 (累計金200,000円), 加賀谷 秀樹様 (累計金850,000円)
網畑 文明様 (累計金100,000円), 久保田 健一様 (累計金2,810,000円), 小島 英夫様 (累計金250,000円), 藤野 武男様 (累計金140,000円), 篠塚 進一様 (累計金1,800,000円), 渋谷 明彦様 (累計金520,000円), 杉崎 和行様 (累計金450,000円), 田中 義友様 (累計金760,000円), 浪川 裕良様 (累計金60,000円), 原 清史様 (累計金210,000円), 増村 清人様 (累計金450,000円), 三橋 矩昭様 (累計金180,000円), 宮宅 勇二様 (累計金470,000円), 柳本 吉彦様 (累計金134,980,000円), 山崎 達也様 (累計金250,000円), 山中 信秀様 (累計金100,000円), 名倉 4名 (累計金470,000円), 高木 真入様 (累計金450,000円), 東 義紀様 (累計金480,000円), 石井 健様 (累計金70,000円), 服部 孝様 (累計金130,000円)
深澤 昭彦様 (累計金560,000円), 佐藤 好英様 (累計金175,000円), 河原 安賢様 (累計金20,000円), 荻井 辰生様 (累計金60,000円), 河野 茂彦様 (累計金250,000円), 岡岡 昭夫様 (累計金280,000円), 倉園 義博様 (累計金30,000円), 齊藤 安正様 (累計金160,000円), 露崎 勝徳様 (累計金180,000円), 松尾 俊与様 (累計金100,000円), 渡邊 亮夫様 (累計金410,000円), 名倉 1名 (累計金15,000円), 内山 拓哉様 (累計金70,000円), 藤野 希望様 (累計金文善様), 御滝 達雄様 (累計金160,000円), 森川 和哉様 (累計金160,000円), 青山 哲也様 (累計金175,000円), 生形 直也様 (累計金90,000円), 梅田 善幸様 (累計金222,000円), 伊藤 幹晃様 (累計金68,000円)
岡田 一成様 (累計金475,000円), 奥山 謙様 (累計金100,000円), 加藤 研介様 (累計金26,000円), 河原 安賢様 (累計金20,000円), 木村 秀行様 (累計金50,000円), 木村 文男様 (累計金20,000円), 朽木 佳樹様 (累計金80,000円), 工藤 寧様 (累計金90,000円), 栗原 孝明様 (累計金180,000円), 小林 茂雄様 (累計金60,000円), 高梨 秀聡様 (累計金160,000円), 田中 輝昭様 (累計金290,000円), 中村 重行様 (累計金40,000円), 萩野 崇様 (累計金70,000円), 藤森 良太様 (累計金117,000円), 森川 和哉様 (累計金160,000円), 青山 哲也様 (累計金175,000円), 生形 直也様 (累計金90,000円), 相本 亮様 (累計金222,000円), 伊藤 幹晃様 (累計金68,000円)
金5,000円 小倉 正敬様 (累計金113,000円), 児玉 翔様 (累計金70,000円), 三浦 勉様 (累計金3,000円), 小鹿原 秀純様 (累計金253,000円), 鈴木 篤人様 (累計金31,000円), 高橋 慎様 (累計金61,000円), 松原 永長様 (累計金58,000円), 吉田 幸央様 (累計金134,000円), 名倉 4名 (累計金1,000円), 原賢 昇一様 (累計金8,000円), 名倉 1名 (累計金20,000円), 名倉 1名 (累計金36,000円), 君塚 敦子様 (累計金5,000円), 金田 亮平様 (累計金1名), <元教職員> 金200,000円 河村 洋様 (累計金3,450,000円), 金100,000円 竹中正様 (累計金350,000円), 金50,000円 名倉 1名
<教職員> 金500,000円 石川 正俊様 (累計金1,500,000円), 金100,000円 大宮 喜文様 (累計金200,000円), 倉測 隆様 (累計金550,000円), 倉持 幸司様 (累計金300,000円), 金70,000円 宇津 栄三様 (累計金2,680,000円), 金50,000円 柿原 正郎様 (累計金100,000円), 塚原 隆裕様 (累計金100,000円), 金30,000円 五十嵐 保隆様 (累計金1,000,000円), 堀 洋一様 (累計金300,000円), 金25,000円 名倉 1名, 金20,000円 八並 光俊様 (累計金160,000円), 金10,000円 名倉 1名, 金6,000円 松下 港平様 (累計金80,000円), 金5,000円 齋藤 顕宜様 (累計金15,000円), 名倉 1名

寄付金のお申し込みに関心をお持ちの方は、インターネットをご利用いただけます。インターネットからの申し込みはこちら。 [QRコード]

学報(TUS Journal)のバックナンバーは本学HPで公開しています。 [QRコード]

次号予告 東京理科大学報 TUS Journal Vol.232

特集 教育最前線 健康で豊かな人生をすべての人に ●新学部長・研究科長 就任の言葉 ●理大祭開催報告

THE Awards Asia 「学生支援部門」を受賞 TOPICS 01

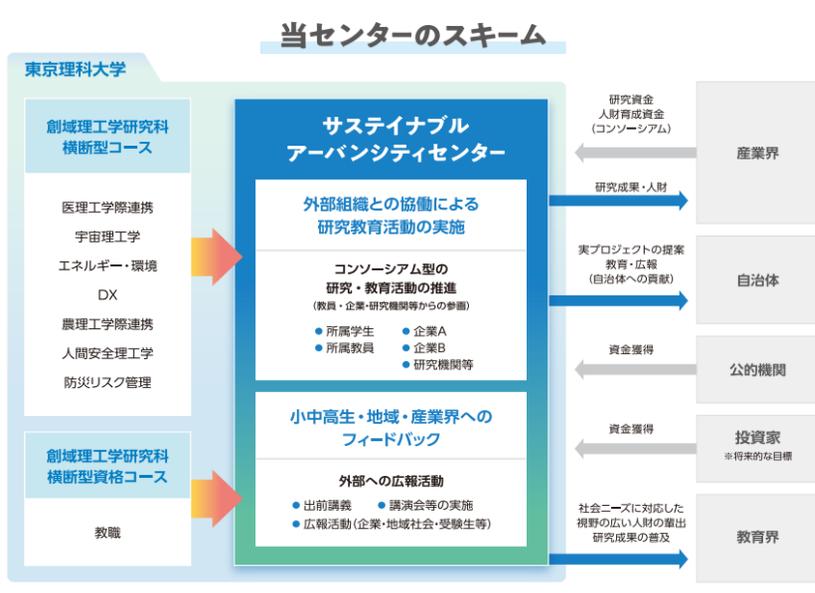
2023年6月21日(水)に発表されたTHE Awards Asia 2023で、本学の「複合的な学生相談体制の構築」が評価され、日本の大学として初めて「学生支援部門」のアワードを受賞しました。THE Awards Asiaはアジアの大学のベスト・プラクティス(10部門)を表彰するイベントで、今回が5回目の開催となります。今回は20以上の国と地域を代表する220以上の教育機関から約700件の応募がありました。本学は、学生数約2万

人の大規模な大学でありながら、学習にキャッチアップできない学生が出ることもないように、個別の学習支援やキャリア支援だけでなく、ピアサポートやメンタルサポートなどさまざまな側面からのサポートを連携させて、きめ細かな支援体制を整備したことなどが評価されました。今後も学生一人ひとりが安心して学習し進路を選べるよう、多様な支援を継続して行っています。 THE : Times Higher Education (イギリスの高等教育専門誌)



詳細は本学のHPでご確認ください。

サステイナブルアーバンシティセンター開設 TOPICS 02



2023年4月、創域理工学研究科(旧理工学研究科)に新たに、「サステイナブルアーバンシティセンター(略称 CSUC)」を設置しました。複雑化した社会課題を解決するには、大学、企業、自治体が学問分野の垣根を取り払い、融合することが必要です。当センターは、大学と学生、企業、自治体の融合を強力にコーディネートし、新たな価値創造と、付加価値の高い研究成果や人財の創出による社会貢献の実現を目的に活動していきます。

詳細はCSUCのHPをご確認ください。 [QRコード]

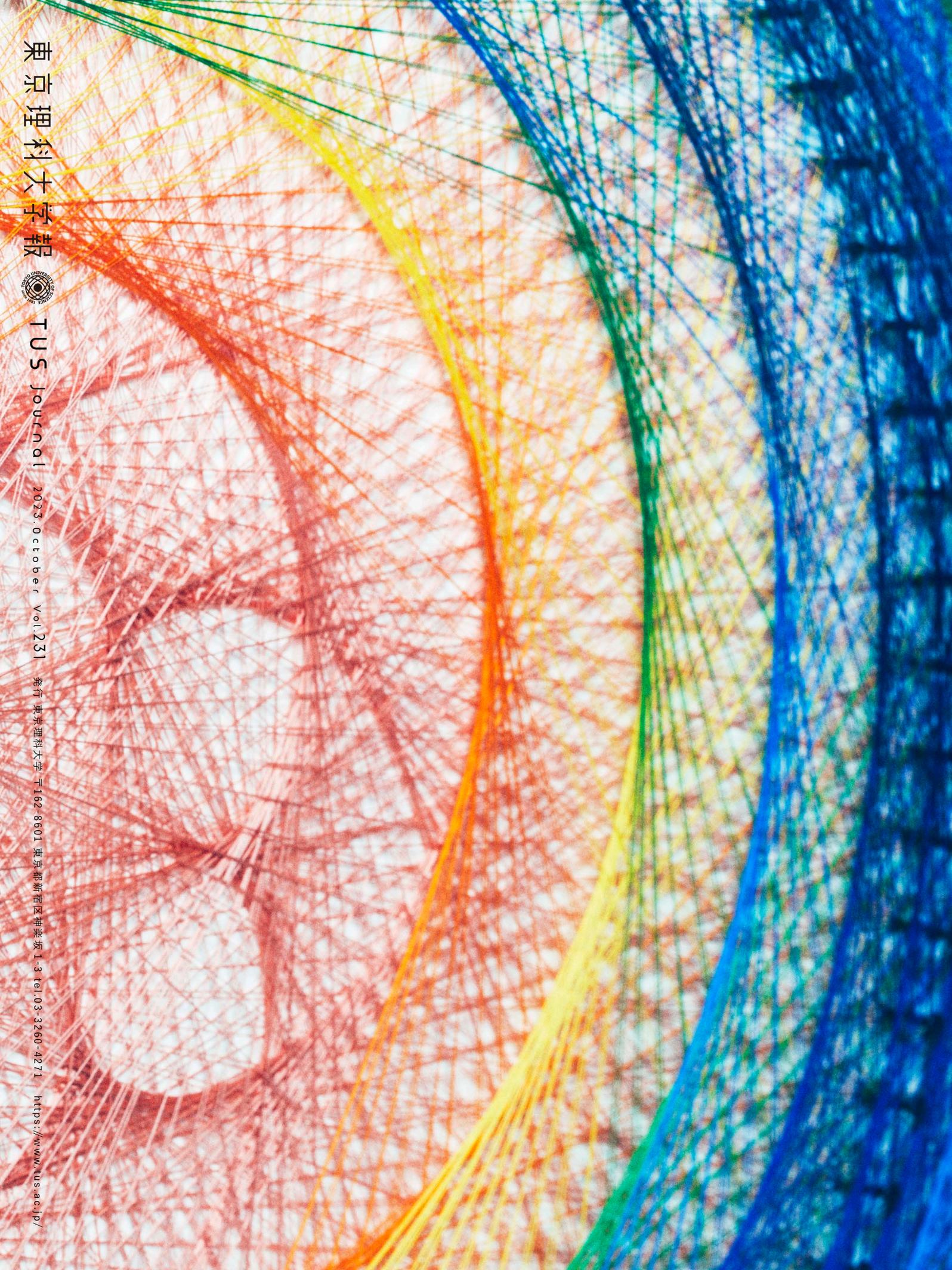
2023年夏のオープンキャンパスを開催 TOPICS 03

8月9日(水)から11日(金・祝)まで、神楽坂、野田、葛飾の3キャンパスで夏のオープンキャンパスを開催し、総勢約16,000人の皆さまにご来場いただきました。また、オンラインでも約3,100人の方々にご参加いただきました。オープンキャンパスでは、大学の魅力を広くお伝えするため、大学説明会や学部学科説明会などが実施されました。また、実際の学びを体感でき

るよう、模擬講義や模擬実験などの体験型イベントも用意されました。各所で現役理科大生が来場者対応にあたり、「理科大の魅力」を語るだけでなく、自身の経験を基に、未来の後輩へ向けて熱心に受験に向けたアドバイスをしている姿が大変印象的でした。

詳細は本学のHPでご確認ください。 [QRコード]





東京理科大学報



TUS Journal | 2023. October, Vol. 231

発行 東京理科大学 〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3 tel.03-3260-4271 <https://www.tus.ac.jp/>